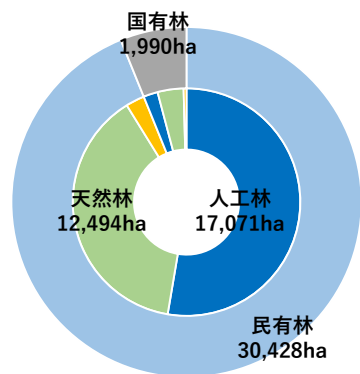


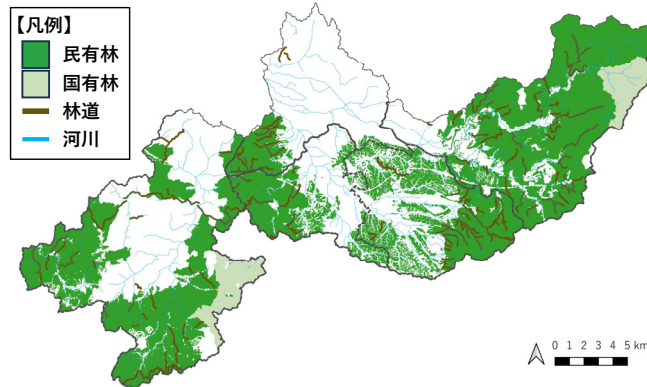
甲賀市の森林の概要

森林資源

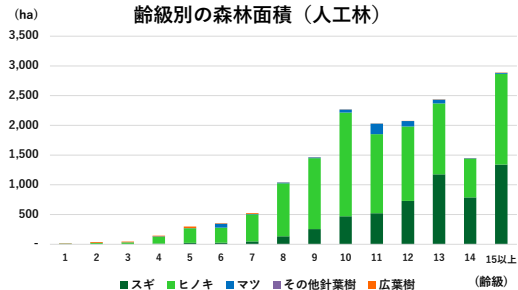
甲賀市の森林面積と内訳



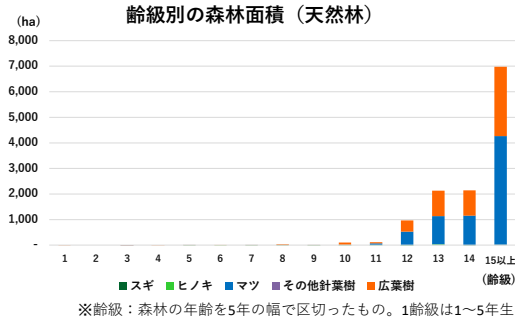
甲賀市の森林の位置



齢級別の森林面積（人工林）

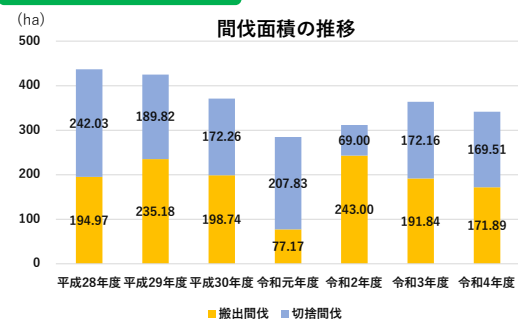


齢級別の森林面積（天然林）

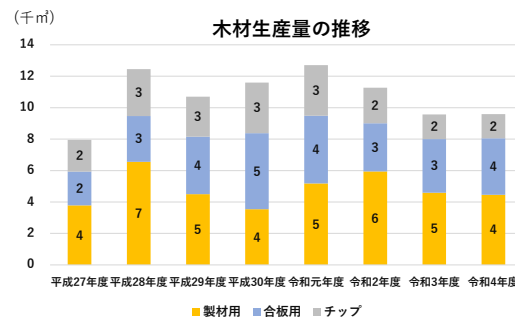


森林整備と木材生産

間伐面積の推移



木材生産量の推移



全国植樹祭をきっかけとした森林への市民の関心の高まり



令和4年6月5日、甲賀市「鹿深夢の森」を主会場として第72回全国植樹祭が開催され、約15,000人が参加しました。サテライト会場の「忍の里プララ」では約2,500人が参加し、パブリックビューイング、木育広場、丸太切り選手権、植樹用の苗木の配布など多くの市民の参加を得て、市民の森林への関心が高まることとなりました。

甲賀の豊かな森林づくり構想

概要版



令和6年3月
 滋賀県甲賀市

構想の概要

令和4年6月に「第72回全国植樹祭」が本市の鹿深夢の森を主会場として開催されたことを契機に、森林整備・保全などの森づくりに対する市民の関心が高まり、次世代につなぐ取り組みとなるよう、令和6年から令和15年（2024年から2033年）の10年間の森林づくり構想を策定することとしました。

甲賀の森林は、木材をはじめとする林産物を提供してくれるとともに、水源かん養、山地災害の防止、二酸化炭素の吸収などの多面的機能を有し、私たちの生活を支えてくれる大切な財産です。この森林を次の世代に引き継ぐため、本構想をととして豊かな森林づくりを進めていきます。



本構想に基づき実施する施策

基本施策1. 適切な森林の管理の推進	
1. 森林境界明確化の推進	◆ 滋賀県や森林組合等と連携しながら、境界明確化の事業を引き続き推進します。 ◆ 森林所有者が自ら行う森林経営・管理の継続を支援することを原則としつつ、森林経営管理制度に則り、計画的に意向調査を進めるとともに、必要に応じて経営管理権集積計画の策定と経営管理実施権配分計画等を策定します。
2. 循環林の整備	◆ 循環林では、森林の状況に応じて利用間伐や主伐再造林を推進し、森林資源の持続可能な循環的な利用を図ります。適切な施業を実現できるよう、境界明確化、森林経営計画の策定、施業地の集約化を推進します。 ◆ 主伐される森林については、適切・確実に再造林がなされるよう、届出制度等の適切な運用と情報収集等を行い、指導・監督します。
3. 環境林の保全	◆ 水源かん養や山地災害防止などの機能を重視すべき森林は、環境林として適切に保全します。 ◆ 人工林として維持していくことが難しい森林は、針広混交林や広葉樹林へ誘導していくことが必要です。そのための具体的な施業方法等の確立や実績の蓄積に向けて、滋賀県や森林組合等の関係機関とも連携しながら検討を進めます。
4. 里山林の整備と利用	◆ 環境・歴史・文化など多様な観点から、里山林の保全と管理の推進は重要です。 ◆ 市内の森林所有者地域団体、滋賀県、森林組合等と連携しながら里山環境の保全を進めるとともに、その担い手である地域・住民主体の団体等の取り組みを支援します。
5. 林道網の整備	◆ 市管理、森林組合管理の林道を中心に、既設路網の適切な維持管理に努めます。 ◆ 大型トラックによる大径材の搬出ニーズが高まることが予見され、国・県の支援施策等も活用しながら、利用頻度の高い区間を中心に林道の改良を進めるとともに、必要な箇所には、林業専用道の新規開設も検討します。
6. 森林整備の効率化と新技術への対応	◆ 急峻地での間伐等への対応や主伐・再造林など、甲賀市の森林施業のニーズに対応し、森林整備の効率化を促進するための新技術の導入・普及・定着について、滋賀県や森林組合と連携して調査検討を進めます。



境界明確化の
現地立会



高性能林業機械
による木材生産



市内製材工場での
丸太の製材



こうか木育フェスタ
木のおもちゃ遊び



「木の駅」の活動
丸太の買取り

本構想で目指す甲賀の豊かな森林

区分	循環林	環境林	里山林
森林の機能・役割	道から300m程度以内の距離にあり、傾斜が35度以下程度の人工林で利用間伐や主伐、再造林が可能な森林	循環林以外の人工林で、針葉樹、広葉樹の混交林化などにより、水源かん養、山地災害防止など多面的機能の発揮を進める森林	集落近くにある広葉樹林や松林で、森林環境学習、森林レクリエーションなどの対象とする森林

資源が充実した**循環林**は、利用間伐、主伐再造林を進め、木材資源の循環利用と二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止に努めます。

環境林は、自然生態系に配慮した施業により多面的機能が高度に発揮されるよう努めます。

地域住民の生活や農業のため、利用保全されてきた**里山林**は、今後も様々な利用をととして、保全されるよう森林づくりの団体などを支援していきます。

森林整備により生産された木材は、甲賀市産材として、広く利用されるよう普及啓発を進めるとともに、甲賀市産材を加工利用する事業者の支援も進めます。

このような森林づくりに携わる人材が確保されるよう、安全で働きやすい職場環境づくりを進める林業事業体を支援していきます。

基本施策2. 木材利用、木育、普及啓発の推進	
1. 甲賀市産木材の需要拡大	◆ 甲賀市産木材の需要拡大と木材産業の振興策について、市内の様々な事業者との協議の場をもちます。 ◆ 事業活動に精通した事業者が主導し、市が後押しをできるよう、市と事業者との協議を通じて、具体的な施策を検討します。
2. 建築物等における甲賀市産木材の利用促進	◆ 公共建築物や住宅等の民間物件における甲賀市産木材・びわ湖材の活用促進を図るため、部局横断での情報共有や関連制度のPR等に努めます。
3. 森林の多様な価値の活用	◆ 森林の多様な機能から価値を引き出し、市内の森林管理に役立てる取り組みを推進します。 ◆ その具体策のひとつとして、「Jークレジットの創出や普及に取り組みます。 ◆ 環境未来都市宣言の「豊かで健康な森づくり」を推進します。
4. 木育の推進	◆ ウッドスタート宣言に基づき、子どもたちをはじめ様々な世代の市民に対して木育の機会を提供します。 ◆ 市役所内の部局横断による情報共有・連携や市内外の木育団体との協力により、市内における木育の普及と取り組みの質の向上を図ります。
5. 上下流連携・企業等との連携・地域内連携による森林づくり	◆ 上下流連携、企業との連携による森づくりを進める市内の団体等の取り組みに参画・支援します。 ◆ 様々な人の森林レクリエーションや森づくり体験の受け入れについて、事業者の支援を検討していきます。 ◆ 甲賀市の子どもたちや、様々な世代の方が森林とふれあう機会を創出し、市内で開催された「第72回全国植樹祭」により高まった市民の森林保全への関心を地域のレガシーとして継承します。
基本施策3. 森林にかかわる人材育成・団体支援	
1. 林業の担い手確保・育成	◆ 林業人材育成を中核的に担う滋賀県とも連携し、市内林業従事者の人材育成や労働安全を推進し、林業の担い手の確保と育成を図ります。
2. 自伐型林業および林業研究グループ等の地域主体の取り組み支援	◆ 「木の駅」「林業研究グループ」や、地域が主体となって行う森林境界明確化等、森林所有者や地域団体による主体的な活動を支援します。
3. 森林組合、生産森林組合、財産区の支援	◆ 市内の森林所有者を中心に組織された協同組合である森林組合は、森林整備の実行を担う中核組織であり、森林組合と情報共有・連携を密にして本構想に掲げた諸施策を実行します。 ◆ 入会林や旧町村有林など、市内各地域の森林管理の担い手である生産森林組合や財産区による、地域主体での森林管理の取り組みを支援します。

構想の推進体制	
構想の推進のための実務者協議（市と関係者による構想推進）	◆ 構想推進のため、市と市内の林業・木材産業関係者、滋賀県による情報交換や協議を行います。 ◆ 市内の林業の現状や木材利用の実態を踏まえ、市民や市内の事業者のニーズを継続的に把握しながら、滋賀県や関係団体と連携し、市民と協働で本構想を推進していきます。